

# メッセージ

池田大作

ビザンティン学の泰斗として世界的に著名なイヴァン・ドゥイチェフ博士の名を冠するスラヴ・ビザンティン研究所と東洋哲学研究所との共同シンポジウム「東洋と西洋の文明間対話」の開催、まことにおめでとうございます。

30年前の1981年5月、ブルガリア建国1300年を祝う式典に参加するため、私は貴国を訪れる機会に恵まれました。その折、光栄にも、ソフィア大学で「東西融合の緑野を求めて」と題して、講演をさせていただきました。ただきました。

「平和の旗」の記念塔で多くの少年少女たちとともに聴いた平和の鐘の音も、今なお私の胸中深く鳴り響いています。また、プロヴディフ市では樅の木の記念植樹をさせていただきました。この樅の木は、現在、立派な大樹となり、近隣の人々にも親しまれていると、うかがっております。そして忘れられないのは、プロヴディフの少年合唱団の澄んだ力強い歌声です。その後も貴国の皆さまと、文化と教育と友情の黄金の橋を幾重にも築かせていただいていることに、心より感謝申し上げます。

スラヴ・ビザンティン研究所前所長のアクシニア・ジロヴァ博士とは、これまで有意義な懇談の機会をもたせていただいております。ブルガリア民族の精神文化を熟知されている碩学との対話は、言語、音楽、芸術、文学、更に世界宗教の可能性など、多岐にわた



千人の子どもたちが踊り歌った「平和の旗」の集いで。子どもたちは、記念塔の周りにある世界から寄せられた何十もの鐘を、平和への誓いを込めて、一斉に打ち鳴らした（1981年5月23日、ソフィア市郊外で）

りました。博士との語らひは対談集『美しき獅子の魂』として、日本語とブルガリア語で出版されています。また博士からは創価大学へ貴重な図書をご寄贈いただき、重ねて衷心より御礼申し上げます。

大乘仏教の華嚴哲学では、「因陀羅網」<sup>いんだらもう</sup>を引用して、人類文明の在り方を表現しております。帝釈天（因陀羅）の住む宮殿には、大きな美しい網がかけられており、それを「因陀羅網」といいます。この網には無数の網目があり、その一つ一つに光り輝く宝石が結びつけられています。それらの宝石は、それぞれ独自の姿と光彩を四方に放っており、多種多様な光線が相互に交わりあい、新たな色彩を創造していきます。こうして網全体は、荘嚴な光景を描き出しているのです。

この譬えで示されているとおり、「縁起」とは「相資」<sup>あひま</sup>のことであり、相互に依存しあい、資けあいがら、ともに創造的に変革しゆく共生のあり方をさしています。

因陀羅網の網目にかかる独自の宝石を各民族の精神文化とすると、この地球には、数多くの独自性を保つ

文化・文明からの光線が放たれております。これらの光線をとにも強めあいながら、人類の平和と共生のために、創造性を高めていくのが、「文明・文化間の対話」の本来の姿ではないでしょうか。

また、法華哲学のなかにも、万物共生の思想が説かれております。



ソフィア大学から池田SGI会長に名誉博士号が授与され、記念講演「東西融合の緑野を求めて」を行った（1981年5月21日、同大学で）

「一地の生ずる所、一雨の潤す所なりと雖も、諸の草木に各おの差別有り」——この経文は、「法華経」の薬草喻品で描かれている「三草二木」の譬えの一節です。ここでは、大地に繁茂する多様な木や草が、天から降り注ぐ雨の恵みを受けながら、それぞれの特性を發揮して異なった花を咲かせ、実をたわわにつけている、豊饒な「共生のイメージ」が描かれています。色も形も多様な花々が咲き薫るほど、花園が美しく彩られていくように、大宇宙の妙なる律動に合わせつつ、多様な文化・文明が共栄しゆくイメージこそ、人類が目指すべき世界観でありましょう。

ブルガリアは古来より、東西文明の融合の地であるバルカン半島に位置し、原ブルガリアのヴァルナ文明を栄えさせ、スラヴ文化、東方キリスト教のビザンティン文明を融合し、独創的な精神文化を形成してきております。そして今日、西洋物質文明と邂逅しているのであります。

一方、日本は極東に位置し、古来の神道のうえに韓半島、中国大陸から仏教、特に大乘仏教を、儒教、道

教とともに受容し、さらに西洋物質文明をとり入れつつ、独自の日本文化を形成してきました。

今回のシンポジウムは、近代西洋科学技術を生んだ西洋文明圏以外の2つの偉大なる文明圏——スラヴ・東方キリスト教文明と大乘仏教文明の「対話」であります。

ジュロヴァ博士は、私との対談集『美しき獅子の魂』の「あとがき」で「新たな世界は、もはや一極的なものではなく、寛容や、各々の国および個人の文化的伝統、精神的価値を基盤とすべきものである、と私は希望しています」と結論づけておられます。

ジュロヴァ博士が言われるように、2つの偉大な文明圏には、異なる文化への寛容の精神、大自然との共生の思想が息づいています。同時に、豊かな精神性、倫理性を生み出す人類愛、智慧、勇氣、忍耐力、信頼、希望などの「善心」を育んできた歴史があります。

ブルガリアと日本は、それぞれの文明にそなわる偉大な精神性を人類の平和共存のために生かしながら、現代の西洋物質文明をも包含しゆく、人間性に輝く「地

球文明」の創出へ、重要な役割をなすことができることを私は確信しております。

結びに、ソフィア大学、並びにスラヴ・ビザンティン研究所の無窮の発展と、イヴァン・イルチエフ総長はじめご臨席の皆さま方のますますの御健康と御活躍をお祈り申し上げ、御礼とさせていただきます。

(いけだ だいさく／東洋哲学研究所創立者・

創価学会インタナショナル会長)